

ルール解説

ルールの理解は勝利への一歩だ！

試合運営委員会から選手の皆さんへ

第一回テーマ 反駁されなかった、けど・・・

遠い昔、私たちも皆さんと同じ現役プレイヤーとして。敗れて涙したあの日の記憶は、今も胸に鮮明に刻まれています。卒業して審判・スタッフをやりながら、あの時これが理解できていれば・・・と思う事は少なくありません。そんな私たちだからこそ、今の選手に知って欲しい事があります。そんなテクニクや、理解されていないかも？と思えるルールについての解説を、試合運営委員会より連載としてお届けします。

さて第一回は、相手の議論が不十分な場合についてです。選手時代、「相手が反駁して来なかったのに負けた」「資料のない相手の主張を審判がとった」と憤りを感じた事は、正直何度もありました。しかし審判からすれば、反駁しなかつた、資料があつた、なかつたというだけでは判断できないのです。そんなわけで今回は、2つの代表的な反駁の決めゼリフを取り上げて、注意して欲しいポイントを解説したいと思います。

◆「相手から反駁がなかったのだ。」

私たちの主張をとって下さい

これ、よく聞きますね。言ったのに無視されたと感じた事はありませんか？相手が反駁しなかつた論点について、ルールにはこう書いてあります。

ルール細則②

一方のチームが根拠を伴って主張した点について、相手チームが受け入れた場合、あるいは反論を行わなかった場合、根拠の信憑性をもとに審判がその主張の採否を決定します。(後略)

つまり、相手が反論しなかつた点については、「主張の通りであると信じられるくらい」の根拠が示されている」と審判が判断した場合にはじめて、主張が認められます。審判から「そもそも主張した段階で立っていない(十分な根拠が示されていない)」と判断された場合、たとえ反論がなくても評価されません。ですから、主張には「なぜその主張が正しいと言えるのか」を示す根拠をつけるようにしましょう。

◆「相手の主張には資料がついていません」

「うちの主張には資料がついていません」

こんなスピーチもよくあります。しかし注意してほしいのは、根拠として認められるのは証拠資料だけではないということです。

例えば「ガソリン車が走るためには、ガソリンが必要だ」ということを証明する時には、いちいち証拠資料を示す必要はありません。ガソリン車にガソリンが必要なのは普通の日本人なら誰でも知っていること

ですから、特別な立場の人の発言を聞くまでもなく認められるでしょう。

逆に、資料があれば主張の根拠として認められるとは限りません。引用の仕方がルール違反である場合はもちろんですが、そのほかに、資料の内容と主張が食い違っている場合には根拠として認められません。例えば「地球温暖化は深刻な問題だ」という主張をしたときに『ヨーロッパで酸性雨のせいで森が枯れたり像が溶けたりしている』という資料を読んだとします。この場合、資料では「酸性雨が深刻だ」ということは言えるかもしれませんが、しかし、酸性雨と地球温暖化は別の問題ですから、この資料を読んだだけでは「地球温暖化が深刻だ」とは言えないでしょう。

また、資料そのものに根拠がない場合も根拠として不十分とされます。例えば、『地球温暖化は深刻だ。引用終了』では、何がどう深刻なのかは伝わりません。…そんなの当たり前じゃん！と現役時代は思ったものでした。しかしよくよく立論や反駁を見直してみると…実はそんなミスが盛りだくさんなのです。立論を練れば練るほど、本筋は見失われやすくなります。ここは一つ、冷静に見直し、資料がどんな事をどの程度まで言っているのか、よく確認しましょう。

次回予告

さて今回はかなり基本中の基本の解説をさせて頂きました。次回は「論題とメリットの関係」について、選手が間違えやすいポイントを解説する予定です。